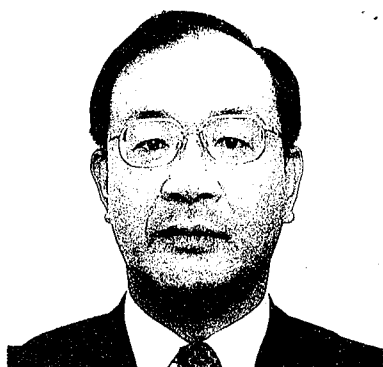


チタン特集号発刊にあたって

Remarks on Special Issue on Titanium



チタン事業部長

山田 勉 Tsutomu YAMADA

新日本製鐵のチタン事業は、昭和59年の発足以来、後発メーカーとして様々な苦難はありましたが、近年、事業体としての安定した収益基盤を築くことができ、また、更に着実な拡大を企図しております。今日このような事業基盤の構築をなし得ましたのは、関係製鉄所並びに研究部門をはじめとした社内関係者の多大なご尽力に加え、社外関係先の温かいご理解並びにご支援の賜物であり、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げる次第であります。

チタン事業の発展の要因として、まず金属としてのチタンの優位性が評価されたことが挙げられます。チタンは“21世紀の金属”と言われ、軽量、高耐食性、高比強度、無害・生体適合性といった魅力あふれる特性を持つ最先端の金属であります。その特性から航空機(機体構造材、エンジン部品)、電力(復水器、海水淡水化装置)、化学プラント(熱交換機器、電極)といった分野へ深く浸透しております。更には、海洋土木、自動車、眼鏡フレーム、医療機器といった新たな分野へも適

用されており、今後もチタンの金属自体の魅力を生かした新規用途開発、適用拡大が期待されます。

次に、新日本製鐵のチタン業界への参入が業界全体の発展を加速させたこともひとつの要因であると自負しております。新日本製鐵の新規用途開発や研究開発を通じての製造コストダウン・品質レベルの向上は、チタンを身近な金属へと進化させ、新規用途の拡大を促進させました。このような技術面での貢献は、チタンに直接携わった社内関係者のご努力の成果であります。鋼材及びステンレスで培われた技術知識・業績のバックアップによるところも大きいものと思います。新日本製鐵は、今後もチタン需要が拡大していく中で、弛まない営業努力を続けると共に、製鉄所及び研究部門が中心となってコスト削減・品質向上に取り組むことより、近い将来、純チタン分野で質・量ともに世界一のメーカーになるものと確信いたします。

チタンは、原料調達、製品販売、更には用途開発にいたる様々な面で、グローバルに展開している事業です。その事業活動においては、世界からの情報をスピーディに収集するだけではなく、需要家の皆さん並びに内外関係者に対し、積極的に情報を発信することが重要と思います。このような観点から、チタン特集の発刊により、当社の技術面における事業展開並びに市場開発努力を皆様にご紹介できることは、非常に有意義であると考えられます。今後とも、なお一層のご支援とご指導を賜りますよう御願いたします。